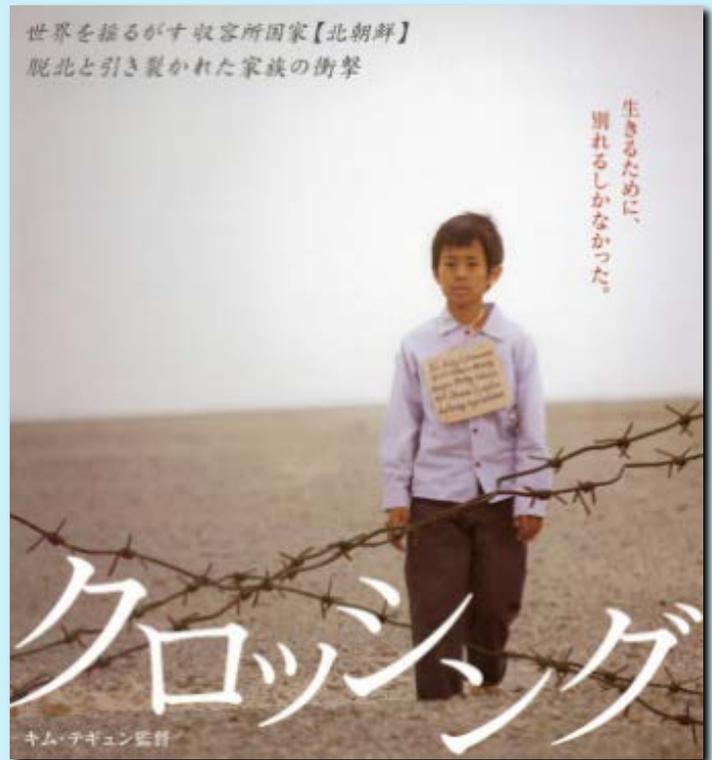


北朝鮮帰還事業60年

北朝鮮に自由を！人権映画祭



◎日時：2019年12月14日（土）～15日（日）

◎入場無料、事前申し込み不要

◎会場：拓殖大学文京キャンパス

（文京区小日向3-4-14、地下鉄丸の内線「茗荷谷」約徒歩5分）

北朝鮮帰還運動（北送事業）の第1次船が新潟港を出港してから、今年12月14日で、ちょうど60年になる。この帰国運動とは何だったのか、そして、帰国者が帰った北朝鮮がどういう国であったのか。映画とトークセッションを中心に考える



◎日程・上映作品（変更の可能性があります）

（1日目）12月14日（土）

C501 教室 9:30 開場 10:00 開会

研究上映「キューポラのある街」（99分）

研究上映「未成年 続キューポラのある街」（101分）

「絶唱母を呼ぶ歌 鳥よ翼をかして」（133分）

（2日目）12月15日（日）

E101 教室（新渡戸ホール）9:30 開場 10:00 開会

「附逆者2」（80分）

「拉致 私たちは何故、気付かなかったのか」（34分）

「クロッシング」（107分）

「北朝鮮 素顔の人々」（30分）

「ドキュメント拉致」（70分）

◎開催費用捻出のためのカンパを募集しています。ご協力いただける方は、よろしく願います。

ゆうちょ銀行 11310-0380357

北朝鮮人権映画祭実行委員会

他の金融機関からの振込の場合

店名「一三八」（イチサンハチ）

店番 138 普通預金口座 0380357

※作品の上映以外に関係者によるスペシャルトークや監督による挨拶などが行われます。これまで聞けなかった制作・上映への裏話を聞くことができます。ご期待ください。

◎主催：北朝鮮帰還事業60年 北朝鮮に自由を！人権映画祭実行委員会

〒112-0004 東京都文京区後楽2-3-8-301

Tel 03-5684-5058 Fax 03-5684-5059

kumoha551@mac.com 事務局長 荒木

◎協賛団体：（アイウエオ順）

アジア自由民主連帯協議会 映像教育研究会

北朝鮮帰還者の生命と人権を守る会 北朝鮮難民救援基金

大韓民国自由民主主義を守る在日協議会 特定失踪者家族会

特定失踪者問題調査会 日本人妻自由往来実現運動の会

No Fence

「北朝鮮に自由を！ 人権映画祭」開催にあたり

北朝鮮帰還事業 60 年 北朝鮮に自由を！ 人権映画祭実行委員会
委員長 佐伯浩明

今からちょうど 60 年前の 1959 年(昭和 34 年)12 月 14 日、在日朝鮮人を乗せた船が、北朝鮮に向けて、新潟港から出港しました。日朝両赤十字の協定で仕組みが作られ、赤十字国際委員会の関与の下、北朝鮮政府と朝鮮総連が組織を挙げて推し進めた「帰還(北送)事業」の始まりでした。

向かった先は、社会主義国家建設途上の「地上の楽園」のはずでした。しかし、朝鮮戦争で破壊され尽くした国土は、極度の物不足…、怯える家族に注がれた厳しい監視の目…、楽園とは名ばかりの地獄でした。

「総連に騙された」「日本に帰りたい」 嘆いた帰国者には冷笑が返って来ました。反抗した者は強制収容所に送られました。現実に絶望し、「こんな筈ではなかったのに」と、自ら命を絶った帰国者もいました。その実態は、苦しみ喘ぐ帰国者からの手紙等で密かに日本に伝えられ、北朝鮮への帰国を望む在日朝鮮人も減少し、1984 年(昭和 59 年)7 月に事業そのものが終了しました。

この 24 年間に総計 9 万 3340 人(うち妻、夫、子供達など日本人は 6839 人)もの在日朝鮮人とその妻子らが、北朝鮮に送られました。しかし、日本は戦後復興に夢中で北朝鮮に渡った日本人妻や在日朝鮮人の動向には無関心でした。

そんな日本政府の動きを窺っていた北朝鮮は、帰還(北送)事業の前後から、国を挙げて、今も家族を苦しめている犯罪を行って来ました。拉致です。

日本政府・警察が認める日本人らの拉致被害及び未遂のケースは 14 件 21 人で、さらに警察庁が明らかにした北朝鮮への拉致の疑いが排除できない失踪者は約 900 人にもものぼります。北朝鮮が拉致を認めて謝罪し、帰国できたのは 5 人に過ぎません。深刻な人権問題です。

北朝鮮による拉致被害は日本人だけではありません。韓国をはじめ 10 か国以上にも及び、『国連北朝鮮人権調査報告書』によれば、朝鮮戦争休戦以降今日まで、北朝鮮により拘束もしくは拉致された韓国人は 3835 人。うち 516 人が未帰還のままです。さらに、朝鮮戦争中に北朝鮮に拉致された韓国の民間人は 9 万人以上にのぼります。この他、少なくとも 5 万人の韓国軍捕虜が戦後帰還できず、うち約 500 人は今も北に囚われていると推定されています。

幾多の悲劇を生んだ帰還(北送)事業には、もちろん当初から反対し、抗議し、帰国者を支えて来た人達がありました。さらに、北朝鮮による拉致犯罪を確信し、抗議し、被害者家族を支援して来た人達もいました。そうした各界各層の人々が連携して、この度、北朝鮮の人権に焦点を定めた「北朝鮮人権映画祭」を開催する運びとなりました。

第一日目は帰国事業の欺瞞と悲劇に関して、二日目は朝鮮半島内の実情と拉致問題の深刻さについて、新たな動きも含めた合計 8 本の日韓両国の映画作品を上映し、制作に携わった人たちのトーク・セッションもあります。

日本で初めての取り組みです。十分な準備は出来ていません。しかし、北朝鮮で苦しんでいる日本人、韓国人のみならず、朝鮮半島で苦しんでいる民衆の人権を守ろうという、壮大な挑戦です。

是非、拓殖大学文京キャンパスに足を運び、あなたの目で確かめてください。あなたの耳で聴いてください。そして、あなたの心で受け止めてください。

人権問題で苦しむ多くの人々を、救い出すために！